

弘前市立博物館は、江戸後期から明治前期にかけて作られた15枚の看板(今で言う「模様サイン」)を収蔵しています。企画展などで展示することがあるのですが、お出掛けの際は展示内容をチェックしてみてください。



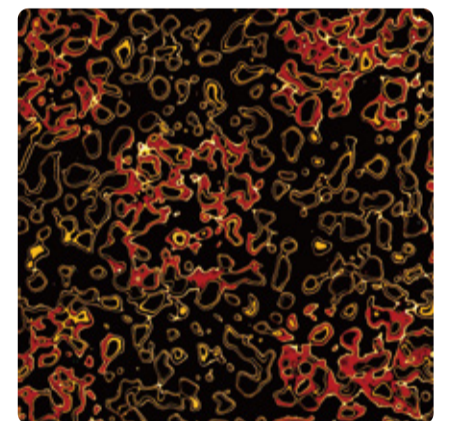
明治期の塗(かわりぬり)五段重 [弘前市立博物館]



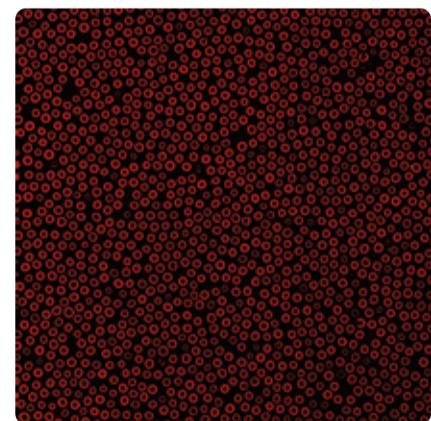
弘前藩第四代藩主 津軽信政が治めた江戸時代中期は交易の拡大により、上方や江戸の文物が地方に伝播しました。信政は藩内の産業育成の一環として弘前城内に塗師(ぬり)の作業場を置き、当初は刀の鞘に漆塗り(し)の作業場を置き、やがて装身具や調度品、器や重箱も色漆で飾るようになりました。明治6年、ウイーン万国博覧会で産地を記す必要が生じた時に「津軽塗」の名が初めて使われたと言われています。2017年には津軽塗が、青森県で初めて「国の重要無形文化財(工芸技術)」に指定されました。漆芸分野では、石川県の輪島塗に次ぐ国内2例目です。

藩主による津軽の産業育成が始まり 刀の鞘を彩る装飾から調度品へ

唐塗(からぬり) 仕掛けへラという穴の開いたへらを用い、卵白を加えた粘度のある黒漆で斑点模様を付けた上に色漆を塗り重ね、砥石や炭で研ぐと、色漆の断面模様が現れます。



七ツ子塗(ななこぬり) 魚の卵(ななこ)を思わせる江戸小紋風の粋な塗。漆を塗った直後に粟種を蒔き、乾いた後に粟種を剥いてできる輪状の突起を研ぎ出します。



紋紗塗(もんじやぬり) 筆に付けた黒漆で絵や紋様を高肉に盛り上げて描いた直後に、粉殻の炭粉を蒔き付けて乾燥させる。その後、研ぎ出すと炭粉の中から模様が見えます。



錦塗(にしきぬり) 黒と朱色で市松模様はぼかし塗りしたななこ地に桜唐草、紗綾型を筆描きし、緑色の隈取りを添え、錫粉を加えた朱漆を刷毛塗りし、研ぎ出します。



4種類の津軽塗

津軽の手仕事

つがるぬり

[津軽塗]

ついで歩いて
つがる探検
てしごと探訪

◆ 掲載店舗情報

- 居酒屋「ぼんしゃん亭」----- 地場食材を使い、独自にアレンジした郷土料理などを津軽塗の器で提供。
[関] 日・祝 / ☎ 0172-36-6500 / 弘前市土手町36-13
- 木村漆工房----- 津軽塗の製造、海外向けの商品開発から神社仏閣等の漆塗装まで手掛ける。
要事前連絡 / ☎ 0172-27-6505 / 弘前市川先1-4-8
- 蔵の店 和雑貨「与志む良」----- 普段遣いから贈り物まで。津軽塗の食器、弁当箱、和雑貨などを販売。
[関] 日 / ☎ 0172-32-6570 / 弘前市代官町106
- クラフト&和カフェ「匠館」----- 弘前の職人の手による伝統工芸を展示・販売。和にこだわったメニューも提供。
[関] 年末年始 / ☎ 0172-36-6505 / 弘前市上白銀8
- 津軽のおかず 旬の味「甚平」----- 旬の食材を活かした昔ながらの津軽の味、地酒を津軽塗の器、酒器で提供。
[関] 火(8/1~7は無休) / ☎ 0172-32-1408 / 弘前市駅前町16-3
- バー「侍庵」----- 落ち着いた和テイストの店内。旬のフルーツを生かしたカクテルは格別。
[関] 第1・3日曜 / ☎ 0172-33-5139 / 弘前市新鍛冶町9-3
- 弘前市立観光館----- 2階スペースで、津軽塗の下地から完成まで48の作業工程を展示している。
☎ 0172-37-5501 / 弘前市下白銀2-1
- 弘前市立博物館----- 弘前城跡の一角に建ち、弘前藩にまつわる美術工芸資料などを系統的に展示。
[関] 第3月曜(祝・休日の場合翌日)、12/29~1/3 / ☎ 0172-35-0700 / 弘前市下白銀1-6



津軽塗は、漆を数十回塗り重ね、磨き、研磨仕上げを施す「研ぎ出し変わり塗」という技法で作られます。漆を塗った後は乾かす時間が必要で、48工程を要する唐塗は、完成までに約3カ月を要します。多くの漆器が「塗装した上に模様を描く」のに対し、「何重にも塗り重ねた色漆の層を研ぎ出す」ことで模様が生まれる津軽塗は、底から発する奥行き、力強さがあります。色漆を作る時は透き通った胎色の漆に顔料を加え、滑らかなきめ細かくなるまで何度もへらなどで塗り潰します。

へらですり潰した漆を和紙で濾す 幾重もの色漆の層が、奥深い模様を生む

(取材協力:木村漆工房)



江戸時代から 三百年続く手技 津軽塗

江戸は元禄年間、津軽の殿様は塗師（ぬし）を
召し抱え、藩内で栽培する漆で塗り方を施した武
具や装身具、調度品などを重用しました。

漆を塗っては研ぎ、塗っては研ぐ。

職人たちがひたすら繰り返す研ぎ出しの手技は、
堅牢にして奥深い美しさを合わせ持つ津軽塗を
作り出し、三百年の間に津軽の日常にしみ込ん
でいます。

見つけるたびに好きになる！

津軽塗 街あるきマップ

手間ひまかけた漆器の美 使ってわかる なじみ良さ



弘前城や街中から見える岩木山は
津軽の人の“心の故郷”

何度も何度も塗っては研いで、磨く工程を繰り返す津軽塗は、とにかく丈夫。弘前市立観光館にある唐塗48工程の展示を見ると、職人がひたすら手間ひまを掛けて繊細に仕上げる過程がよく分かります。津軽の風土を刻み込んだ「けの汁」などの郷土料理を味わえるお店では、普通に唐塗や七ヶ子塗の器や箸が使われています。手にしっくりなじむ漆器の使い心地を、ぜひ試してみてください。



錦塗の片口や盆も
【与志む良】

紋紗塗や錦塗など
シックなアイテムが充実

与志む良



いがめみち
いかげその
フリットした蕎麦汁に
郷土料理の種類が豊富！
津軽塗とのマッチングを絶えず心がけている

甚平

けの汁

女子におすすり/
佐ボカボカ、食物せん、
小全部
根菜、山菜、ニニやく、
金時豆、凍り豆腐
器は店主の女子みですべて唐塗

お店によって
タイプいろいろ
ちりほ
エチリ系
きのこたみん
かきり豆腐
たまご
お酒にも
ジハニモ◎

【弘前市中心街】



侍庵

弘前市立
観光館

ぼん
しやん亭

コースや宴会は
津軽塗の器で



わらびや
温泉もやれ、イカ...

ゆつくりひとりの食卓で
できそうなバーを発見

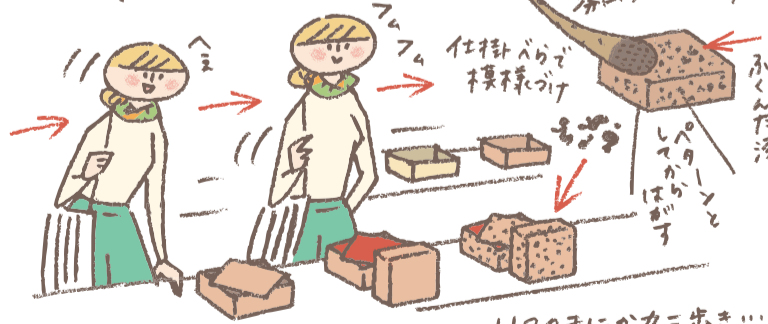


お店の入り口には
時代物の道具、
足音には組子の
不規則音がタペストリー
のように響かせる



「模様のサンプルはお箸です」

唐塗の全48工程が重箱を
サンプルに順番を追って見ることが出来ます。
職人さんの姿が見えてくるような
丁寧でみごとな展示！



ぜんざいは津軽塗のお椀で
【クラフト&和カフェ 匠館】



唐塗の48工程を展示
【弘前市立観光館】



ステムが津軽塗のカクテルグラス
【侍庵】



唐塗の花形皿で自慢の味を
【ぼんしやん亭】



津軽の味を唐塗の器で
【津軽のおかず 旬の味「甚平」】